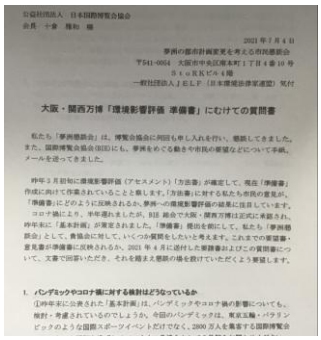
国際博覧会協会との「協議」

昨日 2 日午前、「夢洲懇談会」の一員として、大阪府咲洲庁舎（コスモタワー）43 階の博覧会協会会議室で行われた協議に参加した。会議室から万博予定地・夢洲は見えなかったが、雨に霞んだ咲洲のコンテナターミナルなどを確認できた。進行役「補助」を務めたので、ざっと協議の流れを振り返りたい。

まず、4 月 20 日提出「夢洲の土壌と環境問題から万博計画の見直しを求める要望書」、7 月 4 日提出の「大阪・関西万博『環境影響評価 準備書』に向けての質問書」に対する回答が口頭であった。あとからコメントするが、検討中とか協会とは関係ないなどという回答も多かった。



公益社団法人　日本国際博覧会協会
会長　十倉　雅和　様

2021 年 7 月 4 日
夢洲の都市計画変更を考える市民懇談会
〒541-0054　大阪市中央区南本町 1 丁目 6 番 10 号
B i o R K ビル 4 階
一般社団法人 J e L P（日本環境法律家連盟）気付

大阪・関西万博「環境影響評価 準備書」にむけての質問書

私たち「夢洲懇談会」は、博覧会協会に何回も申し入れを行い、懇談してきました。また、国際博覧会協会(BIE)にも、夢洲をめぐる動きや市民の要望などについて手紙、メールを送ってきました。

昨年 3 月初旬に環境影響評価（アセスメント）「方法書」が確定して、現在「準備書」作成に向けて作業されていることと察します。「方法書」に対する私たち市民の意見が、「準備書」にどのように反映されるか、夢洲への環境影響評価の結果に注目しています。
コロナ禍により、半年遅れましたが、BIE 総会で大阪・関西万博は正式に承認され、昨年末に「基本計画」が策定されました。「準備書」提出を前にして、私たち「夢洲懇談会」として、貴協会に対して、いくつか質問をしたいと考えます。これまでの要望書・意見書が準備書に反映されるか、2021 年 4 月に送付した要請書およびこの質問書について、文書で回答いただき、それを踏まえ懇談の場を設けていただくよう要望します。

1. パンデミックやコロナ禍に対する検討はどうなっているか
①昨年末に公表された「基本計画」は、パンデミックやコロナ禍の影響についても、検討・考慮されているのでしょうか。今回のパンデミックは、東京五輪・パラリンピックのような国際スポーツイベントだけでなく、2800 万人を集客する国際博覧会

第 1 に、博覧会協会の「姿勢」である。私たちは要望書や質問書で文書による回答を求めてきたが、協議でも文書回答はできないと拒んだ。大阪市などとの協議では、文書回答にもとづいて意見交換するのが通例だ。なぜ文書回答ができないのか質したが、明確な回答はなかった。協会からの口頭回答で 30 分が経過。協議の時間や誤解を招かないためにも、引きつづき文書回答を求めたい。前回から協会メンバーは大幅に替わっていた。各種団体の「寄り合い所帯」と言われるが、組織としての責任体制、まとまりに不安を感じた。協会は夢洲での万博開催だけが仕事であり、あとは大阪市などの問題だと責任転嫁する姿勢にも疑問を感じた。

第 2 は、環境アセスメントについてである。昨春に方法書が確定して、準備書作成が進められているが、今年 12 月頃に公告・縦覧する予定のようだ。コロナ禍の会場計画、絶滅危惧種などの調査など、環境アセスメントの新たな課題も多い。私たちとしても、環境保護団体などと協働して準備書に対する「準備」をしていきたい。

第 3 は、万博の財政問題と跡地利用である。「大屋根」などによる会場建設費アップ、2800 万人の集客を前提とした万博運営費など、協議をつうじて多くの課題も明らかになった。夢洲の埋立事業を中心に「港営会計」や大阪港経営の悪化についても指摘した。大阪万博は SDGs をキャッチフレーズにするが、会場計画はそれと矛盾することが多い。万博の跡地計画についても、SDGs の視点から真摯な検討が求められる。

（2021 年 9 月 3 日）